栃木県現代俳句協会報

No.182

第一八二号

発行所　〒三二七―〇三一五
佐野市吉水駅前一―五―八　水口方
栃木県現代俳句協会

発行人　中井洋子

編集人　山野井朝香

令和八年六月一日発行

第七十三回俳句研究会

令和八年四月二日㈭
宇都宮市中央生涯学習センター

花の宇都宮吟行

森本金一

表題は美しく「花の」とありますが、当日の天気は、すっきりしない雨模様でした。いったん、雨が上がったと思いきやパラパラと降ってくるような有様でした。それでもお元気な中井会長他有志たちはわずかな間隙を縫って県庁の東側にある慈光寺（通称赤門）へと向ったのであります。突然、案内人と指名された白石さんは、うってつけの博識の方でありまして、道中の植物や建造物等の説明も途切れることなく素晴らしく、とても楽しい時間となりました。古刹の雨上がりの桜や歩道に落ちた花びらに目を奪われましたが、私にはそれを伝える俳句にはなりませんでした。

句会ではいろいろな場面を切り取った俳句に出会えてとても刺激になりました。特に高名な選者の先生方の選んだ句の解説を聞いていると、なるほどと考えさせられました。私はそのような句を見逃していたのです。名句を作ることは難しいが、せめて鑑賞だけでもできるようになりたいと、帰りの電車の中でしみじみ考えさせられました。

最近、水彩画を始めましたが、これもまた、同じモチーフでも人により全然違う作品になります。上手・下手を抜きにしてその人の個性や人柄が表れて、とても面白く味わい深いものです。

俳句も同じように、詠んだ人の本当の心情が見えるよう自分を磨き、琴線に触れる俳句に少しでも多く出会えるようになりたいです。

◇**特選賞**

和田　浩一　選

花の雨アンパンマンが好きな子と　　速水　峰邨

中井　洋子　選

教会の息遣い秘め春の雨　　遊座　純子

石倉　夏生　選

空白の我が身置き去り桜散る　　鯉沼　桂子

速水　峰邨　選

さえずりを手帳にはさみ階登る　　水口　圭子

須藤火珠男　選

透明な傘に攫(さら)ひし桜かな　　白井　正枝

中村　克子　選

相席のカフェに花冷え分かち合ひ　　小川たか子

水口圭子選

焦げくさき記憶を芽吹く大銀杏　　白井　正枝

◇**最高点句**

さえずりを手帳にはさみ階登る　　水口　圭子

花冷えへ人を吐き出す終着駅　　水口　圭子

◇**その他の作品（順不同）**

護国神社

戦没の看護師碑へと散るさくら　　和田　浩一

釜川の鯉散る花に知らんぷり　　中井　洋子

桜から桜へしばし漂泊す　　石倉　夏生

自分時間をじっくり満たす花の雨　　須藤火珠男

雨空の芯より垂れて糸桜　　中村　克子

それぞれの母を語れり桜餅　　中村　國司

宰鳥蕪村句碑

桜満開見上げれば幹に傷　　山野井朝香

雨上がる気付けば花の多き街　　池澤　光子

雨音がゆっくり四月連れて来る　　和田　璋子

県都のバスどれも春愁閉じ込めて　　増山　ちさ

全員集合

馬の銅像

諸家近詠

あそうりえ

花万朶たぶん今夜は発狂す
転校する君へ向日葵の花束
旧谷中村刈っても刈っても曼珠沙華
「閉店しました」凌霄の咲きほこる
母の忌や月下美人の香で目覚め

赤門の桜か点字ブロックに　森本　金一
凝(こご)りなん世代交代樟若葉　白石　文男
紅椿浮かべ釜川雨あがり　佐々木輝美
赤門に朱の濁点や花嵐　綱川　羽音

絡みつつ風に和したり雪柳　江口　悠
花にもぐる蜜蜂の尻ぶるんぶるん
まあだかなもういいかなと初茄子
宙に浮くスケボーの弧パリの夏
赤啄木鳥や垂直着樹こともなげ

空上(のぼ)る白き螺線や蝶の恋　白井　正枝
河川敷の子ら春光の粒となり
麦秋のうねり漕ぎゆく部活の子
傘の色に染まる呼吸や走り梅雨
宇宙(そら)からの弦の奏でや夏に入る

「現代俳句」令和七年掲載

◇**列島春秋**

一月号　書き慣れた筆でしたたむ初日記　片桐　基城
二月号　友の背に疎林の光菜の花忌　山野井朝香
三月号　すれ違うとき受験期の子ら光る　増山　ちさ
四月号　佐野桜子らの歌えば子らに散る　相田　勝子
五月号　思川溯上編隊帰る雁　須藤火珠男
六月号　蛇の残像裏口を開けるたび　大竹　照子
七月号　緑陰に三級山近龍寺の謂れ　中井　洋子
八月号　「開運の街小山」大花火です　宇津木玲華
九月号　鶏頭を篝火として山の墓　池澤　光子
十月号　たうがらし那須与一の郷にかな　永山　華甲
十一月号　校庭に晩秋という落し物　中村　克子
十二月号　広島も長崎も冬ウクライナ　和田　璋子

◇**地区の力**　地区協会報を読む

九月号　教室の黒板は森小鳥来る　白井　正枝
十一月号　父の日の現像液の匂いかな　須藤　正之

第63回現代俳句全国大会

作品募集

投句締切は7月31日(必着)

WEB投句はこちら

現代俳句全国大会は、年に一度、現代俳句協会が主催して行う伝統のある大会です。協会員に限らずどなたでも参加できますから、例年にも増してたくさんのご応募をお待ちしております。

□**応募規定**
3句一組・2千円　何組でも可。ただし、新作未発表作品に限る。**[三組9句同時投句に限り、6千円を5千円にいたします]**
◎前書き・ルビ不可。所定用紙またはWEBで投句を。投句料は普通為替、定額小為替(無記名)、現金書留(作品同封)、郵便払込(青い払込取扱票使用)のいずれか。
※郵便払込…加入者名・中村誠一
振込口座番号・00850-4-156366
受領書のコピーを投句用紙に添付。
□**送付先**　〒446-0061 安城市新田町小山三一-二〇
中村誠一方　現代俳句協会全国大会係
☎090-2265-3478
□**締切**　**7月31日(金)必着**
□**発表**　協会会員誌『現代俳句』に発表。
□**顕彰**　協会賞、会長賞、後援新聞社賞、特別選者賞、秀逸賞、佳作。　※全参加者に入選作品集贈呈
□**全国大会**
令和8年11月29日(日)午後1時より
「名古屋コンベンションホール」
〒453-6102　名古屋市中村区平池町4-60-12
グローバルゲート内　☎052-433-1488
名古屋駅新幹線口を出て南へ「あおなみ線」で一駅の「ささしまライブ駅」下車徒歩2分
□**講演**　映画監督・脚本家井上淳一氏「映画と俳句」
俳人・鈴木しづ子の映画を構想中。
□**懇親会**　午後5時より(会費8千円)
※昭和一〇一年はジャズと映画と俳句のコラボ！ジャズ句会in全国大会　コンセプトは「あなたの俳句をジャズに」入賞句などを即興のジャズにそして若松孝二門下社会派の井上淳一氏の講演を。

[主催]一般社団法人 現代俳句協会　[後援]文化庁・毎日新聞社・朝日新聞社・読売新聞社・中日新聞社

◇お知らせ

○石倉夏生　Web版『現代俳句』三月号
・新連載Web版『現代俳句年鑑2026』を読む
特選句一句と秀句五句を選評
・『新作現代俳句十句とその鑑賞』
○神山姫余　Web版『現代俳句』三月号
・「特集」今　現代俳句とは何か
私が推す「現代俳句」に三人三句選と文
○石倉夏生　Web版『現代俳句』四月号
・『現代俳句年鑑2026』を読む
特選句一句と秀句五句を選評
○本間睦美　Web版『現代俳句』四月号、五・六月合併号
・『春秋余滴』「栗石返す」について説明
○神山姫余　Web版『現代俳句』四月号
・週刊エッセイ『時間大丈夫？神山姫余』脳を洗うような体験
○水口圭子　『現代俳句』五・六月合併号
・俳句と私　師との出会いとこれから

＊第二回役員会
・七月三日㈮　開催
役員各位には後日、はがきにて通知致します。
―事務局―

※次号183号の原稿締切りは7月15日です。